

稲守信子さん

1924(大正13)年10月9日生まれ

民間人

戦地 渡嘉敷島



戦争のことは話だけでは、本当に味わっている人じゃないと。大変なことだったから十分に話すことはできないさね。

●1945(昭和20)年3月27日 渡嘉敷島に米軍上陸、28日「集団自決」がおきる

3月からだね。どんなに言ってもいいかわからない。玉砕場(ぎよくさいば)でお姉さんも姪っ子も一緒だったんですよ。玉砕場で手榴弾で、地域の人たち、親戚、みんな一箇所に集まって、あっちもこっちも。

死ぬのは恐くないから、もう先に死んでいるほうがいいという感じだから。

だけど手榴弾が、兵隊の経験はない叔父さんだったけど、隣のおばあの兄弟だったけど、自分で持って破裂させたから、自分の手がみんなとんで、叔父さんだけ亡くなったわけ。うちの姉さんも頭やられてる。中の脳が動くのが見える。飯も食べきれない。かつおぶし、山の上に持って行って、お砂糖と、石で砕いて水と流し込んで。こんなしている人が90まで生きてねえ。

分からないのよ。自分たちはこっちの壕があったわけよ。こっちに避難しておけばどうもないのに、みんながあっちに行くからあっちに付いて。もう雨もじゃあじゃあ降る、もの凄い雨だったのね。なんでどこに行くかねって山越えて付いて行ったら、もう夜からよ。行ったらみんなこうなってるから。

手榴弾というのも兵隊が持っているのさね。誰の命令かわからんけど、その当時の村長は渡嘉敷(部落)の人じゃなくて、阿波連(部落)の方たちは村長が命令しなかったかねと、ことだったかわからんけど、非常に言われていたよ。あっちに行かんのは助かってるわけ。行かないのもいたよ。(行く時も集団自決になると思って行ったわけではなくて?)付いて行ったらみんなこんな。でも分かっている人もいたんじゃないかね。最期の着物も上等から持って、履物も新しいのを持っている人もいたから。

それが終わって……、玉砕場で死にきれないのがあちらへんでまた、いろんなやり方して、お互い持っている道具でねえ、生きるのが大変だからいろんな殺し方して。阿波連の人たちは、特別に道具持ってたから、鉈であれするものもあるし、分かって来たんじゃないかね。自分たちの壕で避難しておけばこんなに犠牲者は出ない。でもよ、一家全滅したところもありますよ。

死ななくなった、生き残ってるのはみんな立って、逃げる途中で弾でやられて亡くなったのもいっぱいいるけど。

●山中に入る、8月15日下山 (証言パネル後出)

(取材日:2015年2月10日)

※渡嘉敷村関係者全戦没者数 (渡嘉敷村公式HPより、2008年3月1日現在)

- ・ 本土出身将兵 81柱
 - ・ 渡嘉敷村ほか 513柱
- | | | | |
|----|-------|------|---------------|
| 内訳 | 軍人・軍属 | 91柱 | (全員が島外に於いて戦没) |
| | 防衛隊 | 42柱 | |
| | 一般住民 | 380柱 | |

513名のうち「集団自決」とみなされる公簿上の戦没者数(3月27～29日の死亡者数)

防衛隊	42名
一般住民	288名
計	330名